

日本には、水に関する素敵な言葉が沢山あります。例えば、「水明」や「水波」など日本にしかない美しさを感じられ私は大好きです。

そんな美しい言葉とは裏腹に水は人の命を奪ってしまう残酷なものだと考えるきっかけになったのは、「命の大切さを改めて考える授業」として、陸上自衛隊の方々が東日本大震災の津波被害を題材とした講話をしてくださった時です。

私は授業を受ける前は、生まれて一度も水で命の危険を感じたこともなく生活してきたので、これからも大丈夫なんだという甘い考えを持っていました。でも、東日本大震災の映像を見て考えは一変しました。津波が押し寄せてくる勢いは尋常ではなく、まさに人に襲いかかってくるという言葉がびつたりでした。道は二つしかなく、どちらかを選べば助かるかもしれない、はたまたどちらもダメかもしれない、そんな究極の選択肢の中、己と戦いながら逃げないといけない、こんな恐ろしいことは他にないと思います。この津波のせいで多くの人の命が奪われました。亡くなった人だけではありません。一体どれほどの人の心と身体が傷ついたことでしょうか。私は「神がその人に与えた試練は、乗り越えられる強い力を持っているから与えたのだ。」という言葉に勇気をもらったことも多くありますが、これが神が与えた試練なら余りにも残酷すぎます。

講演の最後に、「今も将来も周りの人を大事にしてください。失ってから気づかないでください。」と隊員の方がおっしゃっていました。私達は家族がいて、友がいて、先生や地域の方々に囲まれて暮らしていることが普通だと思ひ込んでしまい、何が本当の幸せなのかわからないと思います。失ってから気づいて、もう少しこうすれば良かったと後悔してももう遅いのです。だから日々の何気ない幸せも噛み締めて大切にしていきたいと強く思います。

そのようなことを考えながら授業は終了し、私は、津波の被害について重い気持ちを抱えていました。しかし、どこかで「自分の住んでいる北村に津波が来ることはないだろう。」とも感じていました。北村は、海から遠く離れた内陸部にあるからです。

しかし、ふと、北村が過去に何度も大きな洪水の被害を受けてきたと聞いたことがあるのを思い出しました。そこで改めて調べてみました。すると、北村は、石狩川のそばに拓かれた土地で、開拓以来、何度も石狩川の氾濫に悩まされてきたことがわかりました。その対策のために、例えば、北村には北海道で最大規模の遊水地が整備されています。私が水による命の危険を体験したことがないのはこうした対策が私たちを守ってくれているからなのだと気づきました。あたりまえにそこにある風景なので普段は気づきにくいのですがこれは本当に幸せなことだと思いました。

災害は、遠い場所で起こる未来のことだと思っていました。実は身近な所に潜んでいるのだと思ひました。そして気づかない所で私たちは守られているのだと思ひました。

これから先、もっとひどい災害が起こる可能性があるかもしれないかもしれません。遊水地などの様々な対策に感謝しながら、もしもの時が来た時のためにも今のうちからハザードマップを確認したり、非常用持ち出し袋を用意したりするなどの備えをしたいと思います。大切なのは、怖がる前に備えることです。

水は時に怖い一面もあります。それは紛れもない事実です。でも、人にとって水は、切っても切り離せない関係があります。私たちが水としっかり向き合うことで、水は「本当の宝物」になるのではないのでしょうか。

これから先、水で苦しむ人が一人でもいなくなることを祈っています。